

～市長から市民の皆様へメッセージ～

令和2年 災害が問いかけるもの



この度の「令和2年7月豪雨」災害では、本市において1人の尊い命が奪われました。亡くなられた方のご冥福をお祈りしますとともに、ご家族・関係者の方々に衷心よりお悔やみ申し上げます。また、家屋の被害や田畑の流出など、被災された市民の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

今年、市制80周年を迎える日田市は、歴史的変化を求められる年となりました。

年度当初から、新型コロナウイルス感染症が日本はもとより世界的な拡大をみせ、生命の安全や世界経済に深刻な事態を招いています。これまで私たちは、福祉・教育・経済など、様々な場面でコミュニティ・人間関係を大切に「地域社会」というものを築いてきました。それがある日を境に、3密を避け「新しい生活様式」が求められるようになりました。一つの感染症で、私たちの暮らしは大きな変化を余儀なくされています。

そのような社会状況の中、今回の豪雨災害が発生し、本市にも甚大な被害をもたらしました。平成24・29年に発生した「九州北部豪雨」で被災した本市ですが、今回の災害は長期化した梅雨によって、さらに甚大なものとなりました。

避難所においては、3密を避けるため様々な制限や工夫がなされました。幸い、大きなトラブルもなく避難できたのは、市民の皆様のご理解とご協力のおかげだと改めて感謝申し上げます。

さて、今回は玖珠川・筑後川が氾濫するという、近年経験したことのない事態が発生しました。大山川流域には3基ものダムがあり、ギリギリの調整をしたにもかかわらずこれらの災害を招いた事は、雨量の多さ、事態の深刻さを物語っています。

天ヶ瀬温泉街の甚大な被害、上・中津江地域の山林被害、流域における様々な地域での住宅浸水被害など、地勢的課題を抱えた災害は、復旧・復興への歩みに影を落としています。

この災害は、人が生業^{なりわ}っていくための文化・文明と、自然がもたらす環境変化とが、どのようにバランスを保って向き合えるかを問うています。河川の在り方、山林の在り方、そして「新しい生活様式」が問われる深刻な災害となりましたが、覚悟を決め、共に英知を絞り、未来につながる復興に取り組んでいきたいと思えます。

市民の皆様とともに、未来に誇れる新たな日田市づくりを進めていきましょう。

日田市長 原田 啓介



広報ひたは、資源保護のため植物油インキを使用しています。